

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【一庫ダム】

平成27年 3月

水資源機構 関西支社

## 【一庫ダム】

### 1. 事業の概要

特になし

### 2. 洪水調節

特になし

### 3. 利水補給

特になし

### 4. 堆砂

特になし

### 5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.6 水質保全設備 の評価 本編 P5-158	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年ではないが、割と頻繁に6月～7月に取水深が低い場合に急激な水温低下が見られるため、循環させている底部の高さをもう少し下げることによって改善するのではないかと。例えば、深層曝気装置の余剰空気の吐き出し口標高を底部取水や常用洪水吐きゲート敷高より少し下げて運転するなどの対応は可能か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出水時に水位維持操作をする場合等において、放流量が12m<sup>3</sup>/sから20m<sup>3</sup>/sまでは選択取水出来ず、底部取水となる。また、放流量が20m<sup>3</sup>/s以上の時は、常用洪水吐きゲートで放流することになり、最低水位付近からの放流となるため冷水放流となる。循環範囲の底部標高を下げるには深層曝気設備を少し低い位置に設置する必要があるが、貯水池底部は堆砂しており、これ以上、下げづらい状況である。</li> </ul>	—
5.3 水質状況の整理 本編 P5-19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は減少しているが水洗化により貯水池に流れ込むリンの値は上昇しており、貯水池から流れ出さずに湖内に蓄積される。また、今後、底質部分に蓄積したリンの溶出に対する溶存酸素の管理の問題が出てくると考えられる。このため、平面的に低層部分の調査を行い曝気設備の影響範囲を丁寧に把握する必要があるのではないかと。</li> <li>・低層付近のD0の問題と循環させる深さの関係を今後5年の間にもっと丁寧に把握しておく必要があると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D0については今後の方針に記載しているとおり、ダムの底から1m区間の分布を平面的に試行として調査する。</li> </ul>	ダムの底から1m区間におけるD0分布について調査を行い、平面的な把握に努める。

### 6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・ 成育状況の 変化の検証 本編 P6-46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種の経年的な減少傾向について、「魚類捕獲調査時の外来種駆除が功を奏している可能性がある」と記載している。しかし、ごく限られた場所で数日間捕獲しているとすれば、外来種が減った原因とは考えにくいとため、外来種の産卵時期に貯水位変動が大きくなかったかなど確認し、表現を検討すること。なお、外来種の減少とコウライモロコ増加は若干関係しているかもしれないが、原因はよく分からない。</li> <li>・また、琵琶湖にコウライモロコはいないため、琵琶湖産の放流アユに混入することはありません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定置網をダム湖の上流端に設置し、非洪水期から洪水期に貯水位を低下させる時期に魚を捕獲する調査の中で外来種が捕獲された場合に除去しており、数日間であるため、表現については検討する。</li> </ul> <p>【委員会意見により修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魚類捕獲調査時の外来種駆除が功を奏している可能性がある」という表現は削除した。</li> </ul>	—

### 7. 水源地域動態

特になし